

川崎区第3期区民会議第5回子ども部会議事録

日 時：平成23年12月12日（月）13時30分～15時30分

場 所：川崎区役所7階選挙管理委員室

出 席：朴栄子委員、石渡勝朗委員、宮崎とみ子委員、小泉委員、深澤委員、鈴木委員

川崎区：上野副区長、企画課金子課長、同勝野係長、同佐々木職員

コンサルタント：中島

傍 聴：なし

議 題：1 「地域の人と子育て中の親が会う場所づくり」について

2 「こころの居場所づくり・不登校支援」について

3 「自由に思いきり遊べる場所づくり」について

4 「健康推進に関する取組」について

5 「世代間が交流する場の拡充」について

6 その他

1. 開会

(金子課長)

本日は、お忙しい中、土曜日のフォーラムを引き続きお集まりいただきありがとうございました。当会議は、公開原則が適用されているので、傍聴について、認めているので、ご了解願いたい。本日の記録、議事録については、市民の方に公開をしているので、録音、写真撮影を行うのでご了解願いたい。

配布資料の確認をお願いいたします。

(金子課長)

続いて配布資料の確認をいたします。(※配布資料確認)

それでは、議事進行は部会長をお願いしたいと思います。

2. 議題

(1) 「地域の人と子育て中の親が会える場所づくり」について

(朴部会長)

本日は、沢山の議題がありますので、区民フォーラムでも言われましたが、子ども部会は、沢山の課題があって大丈夫ですかという事でした。まずは、資料1「地域の人と子育て中の親が会える場所づくり」「こころの居場所づくり・不登校支援」「自由に思いきり遊べる場所づくり」について考えていきます。資料1「地域の人と子育て中の親が会える場所づくり」いろんなところで子育てフェスタのような大きなものは、区でやっていますが、もっと小さなところで、いろんな世代間の特に子育て中の母親を巻き込んだ取り組みが出来ないかを投げかけていこう。実際にどんなことをやっているのかというところで、「クッキングおふくろ」というのが出ていますが、私の勤めているふれあい館というところにキッズスペースというのがある、子育て中のお母さん達が遊びに来ています。3年ほど前に田島地区の子ども文化センターで始めました。子育て中のお母さん達ともう子育ての終わられた大先輩との出会いの場所ということで、曜日を通して、川女連の方に手伝っていただいて、毎年いろんな料理を作っています。9月22日におはぎを作った時の写真とチラシです。お母さんたちは、実家が遠いところにある方がおりますので、なかなか自分で作ってみようと思ってもレシピがわからないし、作るとなると中々上手くないところで、教えて頂いて大変嬉しかった。今度ちらし寿司の作り方を教えてほしいというような次の予約が入る。川女連の方々も毎週お母さん達が変わられますので、いろんな出会いがあって、スーパーでも声を掛けられるようになったわよとおっしゃっておられました。おはぎを作った時もお母さん達がどろんこ遊びをするみたいだったり、鍋の蓋の下にお箸を一本置いておいて蒸気を逃がすことも今の若い人は知らないのねと。それを教えてもらうだけで、お母さん達もそんな方法があったのねと、お姑さんに言われたらちゃんとするけれど。うちは単館ですので、地域の方に入って頂いていますが、田島子ども文化センターは、下に老人いこいの家があるので、その利用者の方々と一緒に料理を作って、その後大広間みたいなところで、料理作りを参加されなかった方々とも、一緒にご飯を食べることをやっています。子ども文化センターの館長さん達に聞きますとそれぞれ各館で少しづつやっておられるようです。小泉委員が小田地区の方でクリスマス会をやるというので、小泉委員お願いします。

(小泉委員)

毎月民生委員は、子育てサロンというサロンを第3火曜日に開催しています。今回12月の第3火曜日は、クリスマス会ということで、子育てサロンのお母さん方や地区の民生委員の方がサンタクロース役になって毎年やっていました。今回たまたま、区民会議のこども部会で、世代間交流をする場の拡充ということで、テストケースという形で、近所に浅田町・小田に住んでいる大人に声を掛けて、クリスマスソングとか12月に生まれた誕生日会をかねて、そういう場を開こうということで、朴さんに相談しながらやっております。小田地区の子育てサロンの場所は、小田小学校の斜め前にある小田中央町内会館、今回は、12月20日の10時からやります。この中に民生委員をやっている女性の方男の方は、外で自転車番とか、今回のようにクリスマス会があると一人お母さんが、サンタクロースの役を作って、小さな子ども達に手作りのものを配ったりする。区民会議とコラボレーションしようよということで、今回は、クリスマス歌やたまたま近所にいるサクスが吹ける方とウクレレの弾ける方が来られるといった計画をしております。

(朴部会長)

このような取り組みをあちらこちらで増やしていく事が大事な事なのかなと思います。このようなことを取り組んでくださいと提案していく。どんな提案が出来るのかということで、まず町内会とか、民生委員さんの子育てサロンとかまちの縁側などに提案することが考えられます。

(宮崎委員)

地域に母親クラブが既存であって、年間のこの時期にこういうイベントをしていると思います。その辺のところ、町会から助成を頂いているということで、登録制の形をとっているところもあれば、登録制じゃないところもあると聞いています。登録制であったとしても個人が子育てサロンのようなことをして、拡大していくことも必要。

(石渡委員)

逆があってもいいですね。老人給食会に若いお母さんや子どもさんが来たらいいと思います。お年寄り、喜ぶと思います。今回は、子育てサロンの若いお母さん達がいるところに近所の方を入れようということだけれど、お年寄りが20名ぐらいいるので。

(宮崎委員)

一人暮らしのお年寄りの会食会という形で。

(深澤委員)

自分達の地域でやっている食事会も、回覧でも回っているから、情報としては入ってくると思います。

(宮崎委員)

企画する側の町会に私達が提案するという形でやってみたらどうでしょうか。社協から助成金も入っています。

(上野副区長)

元々は、健康福祉局から「ふれあい会食」ということで、川崎市の社会福祉協議会にお金をだして、市の社会福祉協議会が区の社会福祉協議会に実績に応じて、補助金を出すといった制度です。あくまでも補助金ですからそれぞれ皆さんがやっているなかで、補助金の交付目的の一人暮らしの高齢者のところがあって、プラスがあっても、なんの問題も無いと思います。

(朴部会長)

高齢者の方は、300円で食べれるけれど、親子連れは500円とかというぐらいなのですか。

(副区長)

金額設定は、それぞれにお任せする。参加者の中に高齢者以外の方々をカウントされると交付対象としては、外れるので、そこは工夫が必要です。

(宮崎委員)

例えば、高齢者の方の参加は、助成金の中プラス町会で、あとの方は、小さいお子さんの部分は、町会でもつか。そんなような形作りが出来てきたら良いと思います。

(朴部会長)

町会にとってのメリットを打ち出していけば。お年寄りと若い人をつなぐ事業で町会としても取り組んでいる事にすれば良いと思います。

(宮崎委員)

町会の加入率が低いんです。若い世代の方がマンションに入られて、実際町会に入る加入率は、とても低い。あの意味、町会が窓を広げてあげれば、町会への加入促進になれば良いと思います。

(石渡委員)

最初は、テストケースでもなんでも続けないと。町会の会長に話してプランづくりから始める。

(副区長)

そういう意味では、今おっしゃっていただいたようにまずやってみて、これは、いいねということであれば、事業そのものを高齢者にとっても子育て中の方にとってもお互い地域で一緒に暮らしているので、そういう事業という事で、行政の縦割りで無くすべてを対象にしてほしいといった提案もありうると思います。町会の方々がそれがいいねとまず、理解をしてもらう事も大事ですし、そういう実績を積むことで、行政の方も子ども達にとっても子育て中の親にとっても高齢者にとってもいいね。だったらすべてを対象にこういう人達を対象ということでやっていくのも一つの方法だと思います。ぜひ、実績を積んで頂けるといいなと思います。

(宮崎委員)

来年の3月にもう一度ありますので、今年は、まだ一回しか試行されていないので。

(小泉委員)

近所の町会のお母さんが、美味しい野菜をいっぱい煮込んでくれる。あまり今なんとかの煮つけとか食べないので、特にそういう野菜の煮つけとかを作ってくれます。

(宮崎委員)

旬の野菜でその方のご実家の方からお野菜を沢山送ってきていただいて、会食会の時はほとんどです。私達は、お魚を焼いたりですとか、おつゆを作ったりとか、サラダを作ったりとか。お弁当の中に入れる大半は、その方が作ってくださっています。

(小泉委員)

子育ての中の逆で、やってみたらいいと思います。

(深澤委員)

食事会は、一人暮らしだけではなくて、70歳以上のご夫婦でもという形にして、協賛はそうやって増やしているみたいです。いつも回覧板を見ながらいいなと思っています。

(金子課長)

本当は、そこに若い人たちもいって、私達が動くので、子ども達を見ていてくれれば、まかないの方を手伝いますとかすれば、担い手が増えていいと思います。配膳とかも若い人の方が良いですよ。

(石渡委員)

子どもさんが来ると、お年寄りが喜ぶます。

(上野副区長)

今デイサービスでも子どもと一緒にいるデイサービスが流行っていて、少しづつ子どもから元気をもらう。そういうような取組を公共施設とか、地域のいろんな所で、一年に1回は、子育て中のお母さん達と触れ合うような場所づくりというのを川崎区のいろんな所でやってくださいとお願いをする。区民会議から町内会の皆さんこういうことをやってくださいと提案出来るのですか。

(金子課長)

具体例があった方がいいですね。こういうことをやってという具体例と資料があった方が良くと思います。こういうやり方をして、こういうメリットがあるので、ぜひ広めてほしいといったもっていきかたの方がいいと思います。

(石渡委員)

出来る小さな地域からやるといいと思います。地域によって、組織とか違います。私の知っている大師地区でいうと基本的には、老人いこいの家を管理しているのは、地区の社協です。地区の社協の会長・副会長は、町内会の会長・副会長がなっているので、町内会とも連動しています。このため、社協の方々に理解を得ないと老人いこいの家の運営は出来ないのです、まずそこを説得する。その次に今度は町会の人達も含めてどの程度協力してもらえるか。場合によっては、町会によっては、予算ですよ。かなり緊密に出来ている所はいいのですが、そうでない所は、1年以上は、かかると思います。実際に給食会を運営しているのは、民生委員です。しかも中に入っている高齢者の方もいろんな意見があって、子どもはうるさいとか、ゲームをやるといやだとか、そういう部分のコンセンスを徐々に得ていかないといけない。出来るところからこういう面があるんだと示していくことが必要だと思います。

(朴部会長)

年に1回でもいいですよ。毎月は難しいと思いますが、今回は、こういうのをやりますからというふうにしたらいいいと思います。

(金子課長)

やってよかったわよと口コミで広がれば、参加者は増えていくと思います。

(朴部会長)

区民会議としていろいろな所で世代間の交流、子育て中の親との出会いの場を作るというような取組を是非企画してくださいという事を公的機関としてはこども文化センターとか、子育て支援センターとか、老人いこいの家とか、あらゆるところに提案する。この提案の仕方には、どんな方法があるのかというのは、役所の方の人から今度教えて頂ける。

(小泉委員)

うちのところの老人会食は、町内会館でやっています。あまり公的な施設は使っていません。大体地域の中の町内会館あたりを使って20人前後のお年寄りが来て一緒に食事しています。食事の後に体操をします。

(宮崎委員)

ほほえみ体操は、支援センターでもやってくれます。

(朴部会長)

デイサービスのスタッフが、一緒にリクレーションする内容は、実は、保育園から仕入れてきます。そういうことを提案していく、その提案の仕方をどこにどんなふうを持っていけば、社協さんをお願いをしていくのか、そういうところの仕組みを知る必要があります。

(宮崎委員)

老人の会食会も地域の場所によって違って、小田地区は、主たる部分を婦人部がやっています。

(小泉委員)

実際に動いたりするのは、婦人部で、会館を利用するから町会長もよいと思います。交流する場をやってみたらと思います。

(金子課長)

こんなメリットがありますよというのを、広めた方がよいと思います。

(朴部会長)

今実際にやっている、事例を出しながら、こんなことをお願いできませんかというようなチラシを作って、いろいろな関係部署に配布していただく。働きかけていく。

(2) 「こころの居場所づくり・不登校支援」

(3) 「自由に思いっきり遊べる場所づくり」について

(朴部会長)

次に「こころの居場所づくり・不登校支援」「自由に思いっきり遊べる場所づくり」についての2つを一緒に考えていきたいと思います。

まず、「自由に思いっきり遊べる場所づくり」ではプレイパークのことで、地域教育会議がプレイパークの事を議題に出したところで、審議が止まっていました。この間、不登校のヒアリングをしたところで、地域の人への親支援をお願いしたいとか、こどもの出会いの場という話が出てきていたと思います。その中で私達は、何が出来るのかいろいろ考えてみました。

二つ提案をさせて頂きたいのですが、一つは、旭町のこどもサポートのチラシがあります。市内の「ゆうゆう」のチラシがあります。不登校のことなら「たまり場」があります。「えん」のチラシがあります。これは、全部ばらばらだそうです。区内の子どもの事で悩みがあった時には、こんなところに行けばいいですよということで、子どもサポートのことが書いてあったりとか、「ゆうゆう」のことが載っていたりとか、こども文化センターも午前中から子どもがきていい場所なので、書いてあったりとか、川崎区の区の教育担当があるのですが、あまり知られていない。役所の中にも家庭指導員さんというのがある。それについてもあまり情報が無いので、子育て中の保護者に向けて、一枚のチラシを作って配布したらどうか。不登校の事は、自分一人の問題ではないとか、子どもが学校に行かない悩みとかをいろんな所で共有できますよというようなチラシ配布を考えてみたらどうかと思います。区内でどこに行けばよいのかというのが無いということなので、私達に出来る事なのではないかと思います。まず知って頂く。

不登校の子どもが会おうという事で、子どもが遊べる場所とか、地域の人達が子どもと会おう場所が必要だということで、子どもが遊べるプレイパークだなどつながっていくのですが、プレイパークはとっても壮大な事。予算とかいろんなことがありますので、私達に出来る事ではない。11月の終わりの新聞に宮前区の方で「冒険遊び場づくり」という市民講座が開かれていまして、プレイリーダーづくりなのですが、地域で子ども達に遊びを指導していくような取組をしている。5回講座で、最後の時が公園で実際に実演する。これなら出来るかなと思いました。プレイリーダーを育成して行って、いろいろな地域で子どもと一緒に遊ぶ大人たちが増えてくると子どもの悩みも聞くことが出来るかなと思いました。「冒険遊び場づくり」のプレイパークのリーダーについて、少し説明を頂けますでしょうか。

(コンサルタント)

参考資料の①をご覧くださいなのですが、プレイパークとプレイリーダーということで整理していきたいのですが、出店がNPO法人「冒険遊び場協会」というのがありまして、全国のプレイパークの事務局です。プレイパークを支援しているところです。そこが、プレイリーダーとは、なにかというところを表しているのですが、一言であらわすと「子どもがいきいきと遊ぶことの出来る環境を作る」事。子ども達の側にいてあげて、子ども達が自由な発想で遊びが出来る様にさらに膨らむようにプレイリーダーは、お手伝いをしていく。子どもの興味や関心をひくように遊びを整理する。遊びの場の状況に応じて注意を払う。子どもの相談相手、信頼をされるプレイリーダーになって良き相談相手になる。けがやおもわぬトラブルも対応してくれる。子ども達がすることに対して大人が否定してしまう事に対して、子どもに代わって子どもが思っている事をアピールしていく。子どもの遊び場と地域を結び付けていく形にもなっていく。もっと細かい部分でプレイリーダーの役割ってなんなのかというと表に書いてあるようにプレイリーダーの役割というのを研修してプレイリーダーになっていく。子どもにいつも寄り添って、子どもの自由な発想を転嫁していく。そして、いつも子どもを見守っていく存在。

以前だしたプレイパークについて分類してみました。プレイパークというのは、常設型と定期型とイベント型に分かれます。常設型は、毎日・それに近い状態で開園しているもので、皆さんが見に行った子ども夢パークとか、羽根木のプレイパークとか。定期型というのは、川崎市内にいくつもあって、月1回とか、2か月に1回とかやっている。この近くだと夢見ヶ崎にプレイパークを作る会というのがある。多摩でプレイパークをやっちゃおう会とか麻生区のプレイパークの会とかが月1回の割合でやっています。イベント型というのは、年に数回。それぞれ特徴がありまして、常設型につきましては、毎日開催するので、毎日来る子どもが多いので、子どもの日々の変化を見守ることが出来るので、親が見えていない事もプレイリーダーを通じて分かる。定期型につきましては、プレイパークの楽しさとか必要性を広くPRしたり、感じたりできる。イベント型については、単にプレイパークをPRすることになると思います。常設型は、毎日になるので、プレイリーダーもプロになる。やっているのは、NPO法人なのですが、しっかりとした団体がやらなくては行けない。定期型は、任意のボランティア団体や行政がやる。

(朴部会長)

急に出てきた話題なので、すぐには難しいと思いますが、川崎区は、小田公園と桜川公園は、週1とか月1で野球場を開放している。桜川公園も毎週水曜日が開いている。開いているだけなので、川崎区には沢山、公園がありますので、そういう場所を使いながら。昔は、子どもの親分がいて、いろんな遊びを展開してくれたけれど、今はリーダーになる年齢には、皆塾通いになるので、遊びを作り出す存在がない。私達「わくわく」なんかでもスタッフさんが子どもの遊びのリーダーになる指導があったりする。そういうことを考えると地域の中で遊びを一緒に作り出してくれる大人が沢山いるともっとイキイキと元気になる。プレイリーダーを育成していくことがまず最初なのかな。どこからかプレイリーダーを連れてきて何かを始めるよりも私達の中で、シニアの退職をしたかたとか、子育てが少し楽になったお母さんとか、そういう大人達に講座とか学んでもらって、自分達の地域で展開して頂くような取組というのを仕掛けても良いのではないかと。1年では出来ないのでは、何年間もかかると思います。プレイリーダー育成というものを掲げていっては、どうか提案したいと思います。宮前区では、市民自主企画という形で5回やっていたみたいです。

(金子課長)

「冒険遊び場づくり」というのは、去年の区民会議の提案なんですね。それをうけて、区民会議の委員さんを降りた人たちが、中心になって動いている場面もあるみたいですよ。公園を活用しようという中の1つで「冒険遊び場づくり」というのがあります。宮前区も公園が多いので、そこが1つのコミュニティの場になっていく。その時だけ公園を道路公園センターに申請して、使わせてもらって、元に現状復帰して返す。プレイリーダーがいないと責任もって出来ないのので区政にまで踏み込んでいます。宮前区は、公園を使って、公園体操をしたりとか公園の活用の中の一つとしてやっています。

(深澤委員)

すごく良いと思いますが、けんとうがつかえません。

(金子課長)

こないだ請願されたなかには要望としては、富士見公園の中にそういう場所が作れないか。請願した人もプレイパークなのか夢パークなのか、分かりにくい部分があって、何を求めているんだろうねというのがあったのですが、子どもの遊び場として整備していく中で皆さんの意見を聞きながら整備していくという回答を当局からも受けて主旨採択。遊び場としては、そこを活用していってもらってよいと思いますが、具体的に何が決まったわけでもないです。

(副区長)

議会でも皆さん賛同は、頂けた。

(金子課長)

賛同は、されていても、具体的にプレイパークを作るのは無理だろう。プレイパークも常設は難しいけれど、子どもの居場所は必要だよ。そこを整備していく中でどういう風にしていくかは、市民意見をきちんと取り入れてやっていきましょう。地域教育会議の代表のお名前でも請願が出ているのですが、その人の意図がきちんと伝わっているのかどうかもわからない。富士見公園に限った事ではなくて、人さえいればそういう使い方が出来る。

(朴部会長)

公園も開放されているのですが、開放されているだけで、そこで今月は鬼ごっこをしようとか、昔の遊びを誰か教えてくれる人がいるとか、そういうような存在がいると集まり方も変わってくる。子どもは、遊具が無いと遊べない。

(金子課長)

小田公園とかも、お楽しみ会のある時は、すごく人が集まりますね。

(深澤委員)

1月に球場の中でお楽しみ会をやりますが、人が沢山集まります。まちづくりクラブの方が主催でやってくれます。

(宮崎委員)

毎週水曜日に保育園の子たちとおじいちゃんが会話している。

(朴部会長)

そういうように空いている公園もあるので、遊びの展開が出来る方がいて、そこに人が集まってきてくれるとまた変わってくるのではないかな。その人を介して、いろんなお話が出来るのではないかな。聞いた情報を共有していく。学校の先生の関係にもつなげていくことも出来る人がいるといいのかなと思います。プレリーダーを育成事業みたいなことを出来ないのかなと思います。

(石渡委員)

宮前区では、かなり進んでいる。プレリーダーを育成してそういう遊び場を作っている。プレリーダーを育成する講習もあって、やっているなら、その講座をどうやったのか聞いて真似をするのも良い方法と思います。

(金子課長)

どこの場所で生かせるかというのが課題で、宮前区はそういった場所が沢山ある。ここにも出ていますが、有馬ふるさと公園というのは、定例的にやっていて、そもそもは、自主保育の人達がそういう活動をしていて、なんとか他の地域にも広めたいということで、プレリーダーが必要だということで、趣旨に賛同してくれる人を見つけて、講習を受けさせる機会を設けて、自信をつけさせて活動につなげる仕組みを作っています。

(小泉委員)

自分達のような世代で、プレリーダーをしたら、お荷物かもしれない。

(朴部会長)

遊びは実は、50代より上の方が豊富です。今うちのわくわくのスタッフは、20～30代は、遊びを知らないから遊びを教えるところから始める。

(石渡委員)

今は、小学校でやっていますねこういう遊び。町内のおじさんが小学校に出かけて、小学生に教えている。それが、こういう公園に広がっていく。

(朴部会長)

プレリーダーというものが何なのかとどういう風に公園を活用できるのかも含めて、自分の家の近くだったら個々の公園を活用したいからどこに連絡をすれば、使えるようになるかという事が学んでいけるような、そんな講座を1年に1回作っていきながらリーダーさんを増やしていく。川崎区には少しづつ少しづつ子どもが遊べる場所が増えていく。

(金子課長)

一番のネックは、近隣住民ですね。

(深澤委員)

全く使っていない公園は、意外とあるのです。まえに「子育てガイドさんぽみち」の関係で川崎区内の公園をほとんど周ったのですが、使っていない公園が何個かあって、雑草が生えきっている状態のまま滑り台があるとか、そういう所を使っていけばいいのではないかと思います。

(金子課長)

公園を使うにあたって、申請して許可を得る段階で、条件を出せば自由に使えますが、火気は厳禁です。

(朴部会長)

子ども達が元気よく遊べるような川崎区という、その為のプレイリーダーづくりをする、実際には、宮前区のプレイリーダーの情報を得て、川崎区で実際にやるにはどうしたらよいか。講座は、謝金がでてくるので。

(深澤委員)

この講座を開くのであれば、宮前でやっていた自主企画事業でやったものならすぐ、通ってしまうと思います。立ち上げる人が何人かいれば内容的には通ると思います。

(石渡委員)

プレイリーダーの希望者、志のある人をまず募ることが現実的ですね。その場合には、区民会議の人がやってもよいのですか。それで集まってきた人がどこでやるのかといった時に先程出てきた小田公園とか桜川公園。子ども達が集まって、リーダーが来ては出来る。

(宮崎委員)

小田公園は工事が入りますよね。当分使えないと思います。

(深澤委員)

来年の夏までは使えるのだけれど、それ以降は使えない。球場は、工事をしないでそのままです。

(小泉委員)

昔遊びみたいな形で、地域の人として学校に行ってあげるけれど。

(宮崎委員)

小学校1年生の授業で駒づくりに行った。

(石渡委員)

宮崎委員が行った小田小学校は、積極的に地域の大人を入れて、子どもと一緒に昔遊びをさせています。今回も声がかかって、1・2年生を相手に午前中やってもらえませんかということで、僕らがけん玉が上手なわけではないけれど、何回かやっていると入る。小田小学校は、地域の大人を取り入れています。

(朴部会長)

学校の中の良い取り組みを地域にも出ていく。学校の中の取り組みは、学校に行っている子しか出来ないのも、学校に行かない子は、出会いが無いので、同じような取り組みが出来れば。プレイリーダーがプレイパークにつながるといった発想を断ち切ってもらって、プレイリーダーを作っていく取り組みは、室内でもオーケーだと思います。子どもが楽しくなるような遊びを提供する大人づくりの講座を模索する。

(石渡委員)

今、田島地区のこども文化センターと大師地区のこども文化センターの職員の交流はあるのですか。

(宮崎委員)

桜本さんとは、別箇になっていますが、9館が11月26日に富士見中学校を借りて小学校のお友達が触れ合う関係のイベントは実施しています。

(石渡委員)

大師地区では、青少年の問題を中心にして、藤崎・大師・殿町こども文化センターを一同にかいして、職員同士の交流が始まった。話すを通じるようになっていきます。

(朴部会長)

子文のスタッフさんがプレイリーダーになっていくと良いと思います。こういった取り組みを模索するという事でよろしいでしょうか。

(4)「健康推進に関する取組」について

(朴部会長)

「健康推進に関する取組」ということで、健康出前講座をやってきました。12月7日におわりましたので、保健福祉センターの方に来て頂いてますので宜しくお願いいたします。

(保健福祉センター)

保健福祉センターで健康出前講座を9月から12月7日に終わったばかりなのですが、3校で延べ4回、日付ですと5日間にわたって、健康出前講座を実施してきました。おいでいただいた委員の方もいらっしゃいます。内容については、資料にまとめて頂いているとおりです。桜本中学校では、食育と依存性物質についてのお話。食育では、野菜はかりゲームを行ったり、講話をし、理想的な食事のグループワークを行いました。依存性物質については、パワーポイントを使って、医師からお話をしました。どんなふうに見守ったら良いのかという所まで話が及んでいます。1年～3年生を対象に行いました。川中島中学校では、12月2日に1年生を対象に依存性物質の話をパワーポイントを使ってお話ししました。川崎中学校では、歯科保健について、今日は、歯科衛生士の本田さんが来ているので、どんな中味かは、あとでお話をさせて頂きます。それぞれ一年生に対しては、MR3期の予防接種のご案内も併せてしております。これの評価については、アンケート集計がこれからなので、生徒自身が自分の健康についてどのように関心が高まったかについては、アンケート集計結果をまわっているところです。報告としては以上です。

あと、本田さんからお話をさせて頂きます。

(地域福祉課本田さん)

地域福祉課歯科衛生士の本田です。宜しくお願ひ致します。先週終わったばかりなのですが、保護者の方にも来て頂いて、ありがとうございました。1校時づつ4クラスということで、2日間にわたって行いました。12月6日・7日で、対象者が149名生徒さんがいたのですが、マイコプラズマが流行っていて、お休みする方も多く、実際に行ったのが、6日の日が64名。7日の日が71名ということで、全部で135名の生徒さんを対象に行いました。今回の目的として、永久歯列が出来る中学1年生というのは、早いお子さんですと乳歯が永久歯に交換して、永久歯列が出来る時期なので、自分の口の中を振り返りながら、体験実習をして、口の健康という形を生涯8020に向けて80歳で20本の歯を残すことを目標にねらいをもって、体験実習致しました。はじめ歯科衛生士だけで説明と思ったのですが、健康増進課本庁の方にいったら歯科医師が兼務でおりますので、歯科医師に15分パワーポイントを使って健康講座をしてもらいました。はじめに15分間というのを一つの体験実習の中で自分の唾液をとりまして、体温で培養させることによって、口の中で虫歯菌がどのように活動しているかどうか色の判別で分かるので、自分の口の中の状態を知ることが、自分のものになるということだと思いますので、講話の時間を利用して、実際に活動状況を見て貰いました。色の変化で虫歯菌がすごく活動している子もいれば、ほとんど活動していない子もいる。虫歯菌が沢山いることによって、悲観してしまうと問題になるので、最初に虫歯菌というのは、虫歯が一本でもあれば、誰もが持っているんだよと説明して、多い・少ないは、これからの口の衛生によって変わるというところから、虫歯と歯周病という形を2本の柱をもって、体験実習とした。説明したあとに唾液を取りまして、初めの1日目は、2クラスやりまして、唾液をとった後に酸性度を調べました。唾液のpHによって、酸性度が強いお子さんは、非常に虫歯になりやすい環境にある。アルカリ度が高いお子さんは、非常に口腔内が良いと自分で見て確認できる。2日目は、歯周病のチェックをしました。出血があると色が変わるというものです。最後のクラスは、噛むことということで、ガムを使いまして、2分間噛みます。その結果によって、唾液が沢山出て、よく噛める口腔内であると色の判別で非常に良い色がでます。5段階の変化によって行う体験実習です。それぞれクラスで違う体験をしたんです。そのあと、どこのクラスも歯垢染め出し液をして、実際に朝磨いてきて、実際にどうなっているのか確かめてみようとして自分で色を付けて、観察してもらった。磨いたつもりが磨けていなかった部分、こんなに汚れているんだという部分から虫歯や歯周病になるんだということを自覚してもらって、それを生活習慣として身に付けてもらう。最後にアンケートを取りました。一連の流れの体験実習をして、最後に体験を通して、どんなことがこれから出来るかという目標を置いてもらいました。そこで磨いているのと磨けていないとの違いが良くわかった。虫歯菌がこんなにいると思わなかった。家族に伝えていこうとかいろんな意見を頂きました。そういった中で集計をいたしまして、それを学校の方に返していこうと思います。全体のものとして、保護者向けに便りのようなもので返していこうと思っています。

MRの方は、最後に保健師の方から説明を致しました。ワクチンを受けていない子ども達にこういうものがあるから、受けるように説明がありました。最後に養護教員と話したのですが、ワクチンの方を受けていない子ども達に学校の方から何か問いかけがあるのか尋ねたところ、中々言っても伝わらず、三者面談の時にプリントを用意して、保護者にこういうものがあるから受けてくださいという事をしていましてとお聞きしました。学校でいろいろな取組みをしているんだと感じました。今回出席してもらえなかったのですが、予定としては、校医の先生、歯科医師の野口先生が見学に見えるという話になっていました。今回行政が行うという事で、次年度に向けて、校医の先生にも知って頂くということで、見学をしてもらう事になっていたのですが、風邪をひかれて、来れなくて、今回実施した内容をパワーポイ

ントの内容をコピーいたしまして、養護教員の先生にお渡ししてあります。養護教員の先生が内容を含めて、野口歯科医師の先生にご報告するそうです。また次年度に向けて、取り組めることをやっていきたいというような報告を頂いています。

(朴部会長)

ありがとうございます。資料のところに実際やった桜本中学校の食事アンケートの結果と「ほけんだより」を出していて、特に薬物乱用についての子どもの感想文がでています。ご覧になられて、何か感想はありますか。

(深澤委員)

食育の方に参加いたしました。説明がすごくわかりやすく、私自身も為になりました。実際に自分達でやる内容が多かったのが、子ども達も楽しんで受けていたので、続けてほしいなと感じました。

(朴部会長)

石渡委員はどうですか。

(石渡委員)

川崎中学校に参加いたしました。全体の流れが良く出来ていて、関心いたしました。15分間の講義の時間とその15分間で結果が出るというふうに時間を上手く使っている。内容的にもたいへん、参考になると思いました。これは、生徒にも好評だったのではないかと思います。校長先生がご覧になっていましたよね。おそらく非常に好評だったと思いますが、今後も続けてほしいと思います。例えば、これから学校数が増えていった場合、どうなるのですか。学校制限をすとかという形で対応されますか。

(保険福祉センター)

今年度だけと私どもは、承っていました。来年度もこのようなやり方を継続すると思っていないのです。

(石渡委員)

もったいないですね。たばこのほうも見させていただいたのですが、先生も内容を研究されていますので、これを今後も活用していただきたいと思っています。

(保険福祉センター)

学校保健の範囲で、学校の中でやっていく範囲のもので、私達地域保健が、どうのりあうかということです。子ども達に対して、住民の方に対して、どんなふうに健康を維持・向上していってもらうのが、私達の仕事なので、中学生もその範囲に入ってくると思うので、私達の業務としていろんな健康課題や健康状態の方や年齢の方がおいでになるなかで、マンパワーがこれだけなので、どこにどんなふうに効率的に効果的にアプローチをしていこうかは、所として判断していくことになると思います。確かに今年、良いものが出来たと思います。かなりの時間とエネルギーと予算も頂いたのできちんと作りあげていっていました。この同じことを来年度もというのは、難しい。そうすると、所として、この業務が、この方法で良かったのか、この対象の年齢で良かったのかを一つ一つ評価して、次につなげていかなければならないというのが私達の仕事だと思っています。今後については、私達はこのように考えております。

(金子課長)

例えばですが、今回は、保健衛生士さんにおんぶにだっこでしたが、こういう年代にこういうことをやったら、どれだけ効果が得られるかやってみないと分からないという所から入っているので、どういうやり方なら可能性があるのか。地域の人に一回作ったこういうデータを渡すとか、年に何回なら出来るとか。

今、中学校が10校あって、今回3校でした。最初は大変だと思うのですが、ペースが出来てしまえば、あとは、人的な問題ですか。

(朴部会長)

今回、一番早くお願いが出来るのが、保健福祉センターということで、多分お金のからみもあったと思うのですが、実際には、区内にいろんな市民グループの活用とかという方法もあるのかとか、ボランティアさんがあるのかとか、企業。食育とか今、企業がやっていたりするので。「健康いきいき」の時には、東京ガスさんが来て、フェスタをやったりとかしているの、地域の力を借りることも含めてやっていけたらいいのではないかと。授業が本当におもしろかったです。子ども達も一生懸命聞かし、保健の先生がやるよりずっと情報量が多くて、専門家だな、さすがだなと思うところがあった。校長先生が絶賛されてまして、桜本中学校の校長先生は、保護者経由で伝えるとか、保健員経由で伝えるのではなくて、直接子ども達が、自分の身体について考えることが出来るいい取組だった。桜本中学では、1年生で聞いて、2年生で聞いて、3年生でも聞いてというのを3年ずっとやっていきたい。3年間聞けば、子どもが自分の身体を考えるだろうとおっしゃっていました。ねらいとしては、子ども達本人に伝える

(石渡委員)

もう一つ内容とともにクラスごとにやったのがよかったですと思います。学校でやると1年生全員とか2年生全員とか、やるケースが多いと思うのですが、今回一クラス一クラスで、丁寧にやって頂いたことがさらに良かったと思います。

(朴部会長)

なので、これを続ける為にどんな力が必要なのか。

(金子課長)

先程言っていた、学校医の活用というのも一つのものですよね。

(石渡委員)

学校医さんに協力をお願いします。学校だけでなく、地域にも場所を作ることは良い事だと思います。今後の課題になると思います。

(朴部会長)

生活環境局とかは、出前講座が一つの取組みになっている。事業展開をすとか、地域の力をお借りしてとか。うちは、ボランティア集団を作って、民族文化を学校に教えにいくことにしているのですが、それは、教育委員会からボランティアさんがやってくださないと投げかけられて、ボランティアに行きますとしているのですが。

(金子課長)

保健福祉センターは、保健福祉センターのほうからちょっと課題を。来年以降は、これでは出来ないけれど、こういう形なら提供できるとかあれば、情報を貰って、それと地域の人とどう組み合わせ、あるいは、学校に行ったとかを活用してやっていけるのかを組み立てていかないとだめです。このままいいからといって、提言されてしまいますと大変だと思います。そこのところを出来るものと出来ないものとを整理してもらって、こういう部分の情報の提供は出来ませんが、マンパワーは、難しいので、その辺を精査してという話になるのか。

(地域福祉課本田さん)

私が行ったのは、川崎中学校だったのですが、養護教員の先生も歯科衛生士の資格を持っている先生だったので、情報としては非常に入りやすいところから自分のところでやっていこうというものを思いついて今年やったので、次年度は自分達でやっていこうと思っています。養護教員の先生の集まりの中で、今回やったことを報告してくださいとお話しました。川崎中学では、こんなことをやったのでということ自分の学校だけでなく、他の学校の方にも先生の集まりの中でご報告して下さると、手があがる場所もあると思うので、また、学校医の野口先生も川崎支部の中の歯科医師会の会員になっていますので、支部長を通じて、お話がいきますから、会ごと取り組んでいこうという気持ちでいると思います。

(金子課長)

手が足りない時は、地域の方もボランティアとして参加する。

(地域福祉課本田さん)

地域の人もいってすぐに出来る人と出来ない人がいるので、その教育をする為の時間とか能力とかを私達が費やすのは、かなり難しいと思います。

(石渡委員)

先程、少し出てきたのですが、各学校の校医さんや養護教員の先生が今度は前面に出てきて、いろいろ指導された中でやっていくという可能性で出来るかどうか分からない。

(地域福祉課本田さん)

そういった中で、媒体をお貸しするとか、大きな模型を貸すとか、今回使ったキットについては、消耗品がありますので、こちらとしては、差がありませんので、無い所で媒体をお貸しするとかという形では協力できると思います。人として行くのは、かなり難しい。

(朴部会長)

健康出前講座を続けていきたいということで、これを続けていく為には、その講師になってくださる方達を募集しなければならない。今の状況でいくと保健福祉センターでは、難しいということであれば、そういう講師みたいな人を集めていくとか、機材をお貸ししますとか、薬とかにもお金がかかるので、予算があるのかというのを区民に投げかけていって、手をあげてもらおうとかを考えていけば、続けていく可能性はある。

(金子課長)

学校保健は、これはやるべきことだと思うのです。子どもが自分の健康に関心をもって、これから過ごしていくにあたって、健康をどう維持していくのか、保健行動がとれるようになる指導も学校の役割だと思います。養護教員や担任の先生方もやってらっしゃると思います。そこを地域の方とどうタイアップするか。本来講師を用意するのも学校の役目だと思いますし、そこの乗りあいかたをどうするのかというのは、学校も判断があると思います。

(宮崎委員)

学校にとっては、お話を聞くというスタンスなのでしょうか。

(朴部会長)

校医さんが来て、保健委員が聞いてというパターンが多いと思います。生徒向けに学年でやってという形でしょうか。

(宮崎委員)

今回みたいな細かい、一人一人の実践のケアは、無かったと思います。

(朴部会長)

今吉川さんの話を聞いて、学校保健と地域保健という分類があるのだなとすごくよくわかったのですが、その垣根を越えて、一緒にやっていくことが出来るのが、区民会議の提案かなと思います。

(保健福祉センター)

私達も今回中学校に行って、今の中学生が置かれている環境をあからさまに見せて頂いた。抱えている問題が大きいのだなというのが浮き彫りになったなと感じています。私個人が思った感想ですが、もっと早い段階から学校保健の中だけでは、困難でもあるでしょうからもっと早い段階から地域保健も乗りあっていけたらいいなと思います。実際に小学校の養護教員の先生方に対して、防煙教育については、こちらから職員が出向いてお話をすることもしています。ただ、中学校になると禁煙教育となって、禁煙の部分が入ってくるので、ステージが違ってきてしまう。防煙1本吸わないという指導と禁煙は、吸っている人にやめなければいけない。平日の昼間学校に行ってる方が、禁煙外来に通えるか。学校に行きながら禁煙するということをどうサポートしていくか。私達も葛藤したところです。私達としては、防煙教育がされていけばよいなと思いました。朴さんが言われたように学校保健は学校保健がやればよいと思っている訳ではなく、地域保健の役割として学校保健がなすべきところにどうコンタクトをとっていくのか。

(朴部会長)

行政の中の分野で考えていくと住み分けがあると思うのですが、川崎市の子どもにとっては、この健康出前講座というのは、直に子ども達に健康を考えてもらう。しかも、中学校期は、親の意見なんか聞かない時期で、本人に語りかけていくというところでは、とても良い取り組みであると皆さん考えています。あとは、これをどういうふうにやったら、

続けていけるかをみんなで知恵を絞って出していく。市民グループも含めて、専門医師とか専門家の力も借りてや
っていく為には、何を準備したらよいかを考える。

(石渡委員)

今の過度的な段階は、出前講座で係合している。これが刺激になって、各学校で一層の工夫と努力があって、よ
りよい内容の授業が出来ていければ良い。必ずしも将来的には、出前でなくても良い。もう少し続けてもらって、各
学校に刺激を与えてもらう。

(朴部会長)

保健の先生や養護の先生がこうやってやればよいかということで、機材は借りにいきますとか、このデータを貸
してくださいとかが出来て、先生たちが自分の学校の中でクラスでやっていけるようになれば、出前講座はいらなく
なる。

(金子部会長)

出前講座は、誰かを対象にやっていたのでしたっけ。地域にやってやるということだったが、今特別枠で学校にも
いっている。

(石渡委員)

タイトルが防煙教育になっていた。我々中学生以上は、禁煙教育なんです。タバコを吸い始めるのは、若い世代
だから小・中・高校生辺りで覚えて、大人になったら30代以降は、吸わない。

(朴部会長)

タバコと薬物が一緒だという事が、子ども達に伝わったと思います。薬物乱用防止教室というのは、タバコとは違
うのかとはじめ思ったのですが、いろんな話を聞いてすごくよくわかったし、だからやめなきゃという気持ちにもなっ
ていくと思うので。保健福祉センターに負担をかけずに進めるのか。

(保健福祉センター)

負担をかけられて困ったわけではないです。私達として本来ターゲットとして効果的に良いと思う所が、どこだっ
たんだろうという所は、私達の中でも評価していかないといけないところなので。今回のところで大変だったからもうや
らないつもりは無いです。急だったこともあって、中学生にだからこれだけの用意をしなければいけないところ
ろ。

(小泉委員)

これは、一般的に中学でやったようなテストは、歯科連盟とかでやっている所はあるのですか。

(地域福祉課本田さん)

例えば、歯科医師会の方で、地域の高齢者で噛んで美味しく物を食べるということは、生きがいの一つなので、お年寄りになっても噛んで唾液をだしてというお話の出前講座を頂いた時に私達が行くとキットがありますので、そういう出前講座はやっています。

(小泉委員)

出前ではなくて、どこかにそういう設備があって、保健師さんがいるような施設はあるのですか。

(地域福祉課本田さん)

無いですね。歯科医がもっていれば別ですが。やっているところとやっていないところがあると思います。

(小泉委員)

今のお話を聞いて、とても良い事だし、機会があれば講座を聞きたいし、拝見したいと思います。自分の子どもや孫にしても一緒に聞きたいと思います。

(金子課長)

地域に対してはどのくらいやっているのですか。要望があればですか。

(地域福祉課本田さん)

業務の中で行ける日に日程をお互いに組んでという形です。月大体2回ぐらい、出前講座としてやっています。希望があって、電話があったり、FAX があって、こういう人達を対象に口腔のお話をという依頼があれば日程を調整して出向いています。

(石渡委員)

子どももそうだし、お年寄りも必要だね。

(地域福祉課本田さん)

特に会食会や一人暮らしの高齢者とかのお食事の前にお話をしています。あと、施設だとか。

(宮崎委員)

会食会の前に保健師さんが来てくれて、血圧を測ってくださってその後にお話をしてくださってというのがありました。

(小泉委員)

特に今、虫歯予防とか歯周病とか切実な問題だから。

(保健福祉センター)

虫歯だらけになったら今更いいかということになってしまいます。

(小泉委員)

80歳で20本というのは、知っているが、よその話だと思ってしまう。

(朴部会長)

中学生期に自分の身体の事を知る・学ぶ場所があるということは、とってもいいことだと今回の事ですごくよく分かりました。学校と地域ということでどういうふうにつけていくのか、つなげていく為の方法があるのか。やった結果としては、良かったが、これをどう展開していくのか考える。

本当に楽しい授業をありがとうございました。

(5)「世代間が交流する場の拡充」について

(朴部会長)

カローリングの交流会をいたしました。資料3を見て頂きますと、皆わきあいあいと楽しそうにやっているという感じがします。やってみて今後どういうふうにしていったらよいのか。川崎区の田島地区を対象にしながら大きな場所でやったのですが、今後これをどういうふうに広げていくかを考えていきたいと思えます。

(宮崎委員)

前回もいったように本来は、10月というのをお話させて頂いていたのですが、地域教育会議と民生委員さんの方にお話をさせて頂いて、教育会議もイベントを組んだりして自分達の忙しさと止まっている状態です。2~3日前の教育会議でこの話をしました。今年度の区民会議の部分、3月までに0よりも2でも3でも実施している方向性で動きたいというお話は申し上げます。1月・2月・3月の前半あたりにやらしてもらえるように話してあります。保健的なことも教育会議から出して頂ける。今現在の収支の部分では、どうにかなるでしょうとのこと。

(朴部会長)

カローリング自体が、こども文化センター4館で対抗戦でやったのですが、実際に16チームやるのに2時間かかりました。16チームで3人ぐらいなので、4セットコースを作ったら手がいっぱいになりました。そういう意味では、沢山の人が集まれるゲームではないのですが、1年~6年生までやっても6年生が勝つとは、限らない面白いゲームなので、地域で若い人からお年寄りまで一緒にやるスポーツとしては、面白いスポーツだと実感しました。

小さい所でいろんな年代の人が集まってやることを仕掛けていながら1年に一回、世代間交流が行えればよいと思えます。

(宮崎委員)

小さな取り組みは、試合といわず、慣れ親しむ、ゲームを楽しむことを展開していて、年1回体育館を借りて大会みたいなものが出来る。

(石渡委員)

先程おっしゃったすべてのこども文化センターでですか。

(朴部会長)

4チームずつで、4コースなので、16チームがでて、試合をしました。

(宮崎委員)

大体、50人ぐらい集まると試合の最終までが2時間。

(朴部会長)

昨年は、初めからトーナメントにしたので、1回戦で負けたらそこで終わってしまった。予選リーグ戦にしたので、どのチームも3回は試合があつて、勝ち上がったところでチームが試合をしていく。

(宮崎委員)

昨年は、1回戦で負けてしまうと最後まで行く段階で子どもが飽きてしまって大変でした。

(朴部会長)

今、田島地区が活発なのですが、少しずつ広げていって、今年は田島地区が中心でしたが、今度は、大師地区を中心にして、その次の年は、中央地区を中心にやっていると3年後に区長杯が出来るかなと思っています。

(石渡委員)

具体的にこの辺りのお話というのは、こども文化センターの方が中心ですか。

(朴部会長)

体育指導員さんと田島は、田島支所の地域振興係が中心です。

(金子課長)

一応地域振興係が預かっている感じで、貸出窓口になっています。田島は、今回協力して頂きました。

今、体育指導員改め、スポーツ振興委員という名前に変わっています。その方達も出来る事は協力しますとおっしゃっていただいているので、広めたいみたいです。

(深澤委員)

市の体育館ではなくて小学校の体育館にも出張ありますか。

(金子課長)

体育指導員さんは、各地区から出ていますので、その人がその地区に行けばいい。

(宮崎委員)

体育指導員さんは、各町会にいます。

(金子課長)

スポーツのまち、川崎でもあるので普及したい。他の区からも問い合わせが来たりしていて、カローリングが注目を浴びてきているようです。そこで異世代交流が出来て、地域活性化になればよいと思います。

(朴部会長)

地域振興課の人に相談をしながら、そこをお願いをしていきながらいろんなイベントの時にいろんな世代が入らうような取組を考える。

(金子課長)

折角、指導員さんがいるので、町会も巻き込んでいった方がいいのかなと思います。地域の人が地域の人を誘わないと業者の人が誘っても無理強いをしているようで申し訳なく思います。地域の盛り上がりが無いと広まらない。

(朴部会長)

今年は、田島地区でやったので、来年は大師地区をターゲットに。こども文化センターの館長さんが大師地区にいたみたいで、大師地区のこども文化センターが興味を持っている。

(金子課長)

子どもだけではなくて。

(朴部会長)

10月10日の交流会は、モデル地域をターゲットに置きながらやっていく。3年後には、区民杯とかが出来る様に広めていく。中央地区にどうやって広めていくか。こども文化センターは、取り入れてくださいと言えば、やって頂けると思います。

カローリングを広めていくのではなくて、世代間交流が出来るカローリングを広めていく。

(金子課長)

ツールとしてのカローリングは友好的だったよ。モデル事業としてもその場で親しくなれる。地域の人達でやれば、顔が見える関係になっていくと思います。

(朴部会長)

スポーツ振興委員さんも協力して下さるということで、町内会がやるイベントでもいいのですよね。

(金子課長)

練習なんかは、自分達がルールが分かっているならば呼ぶ必要はないでしょうが。正式な区の大会になるとそういう方達を呼んでちゃんと審判して頂いた方が、地域でやっている形にもなる。

(宮崎委員)

1回ルールを説明してもらって推進員の方に来て頂いて教えてもらう。

(朴部会長)

このような形で、5つの課題については、今後に向けてというのが出たと思います。事務局からキーワードをと言われていますが、出ましたか。

あと1回で報告書づくりまでいかないといけないのですが、沢山の宿題がありました。

3. その他

(1)事務局から連絡

※事務局より次回、第6回全体会議のお知らせ

(2)次回の日程

※次回は2月8日(水)13時30分～開催することが確認された。

以上